

令和6年3月18日
北九州市消防局
広報室

報道機関各位

「消防団について」の調査を行いました
～令和5年度第8回市政モニターアンケート～

- 1 調査案件
第8回「消防団について」（消防局消防団課）
- 2 公表資料
第8回「消防団について」（消防局消防団課）
⇒ 結果概要及び調査報告書（別添のとおり）
- 3 参考資料
「市政モニター制度」について（別添のとおり）

【問い合わせ先】

- 調査案件の内容について
《第8回》「消防団について」
消防局消防団課
093-582-3819 伊藤・大塚
- 市政モニター制度について
広報室広聴課
093-582-2527 中野・相良

市政モニターに関すること 広報室広聴課 担当:中野、相良 TEL:582-2527	アンケート内容に関すること 消防局消防団課 担当:伊藤、大塚 TEL:582-3819
--	--

令和6年3月18日

令和5年度 第8回市政モニターアンケート
「消防団について」
結果概要

本市では、生業を持ちながら地域の安全を自らが守るために、さまざまな災害に対する活動、予防・防災啓発活動等に従事している「消防団員」の入団促進に関する取り組みを実施しています。

そこで、今後の取り組みの参考とするため、消防団についてのアンケート調査を実施しました。

I 調査概要

調査対象者 市政モニター150人(うち、回答者139人 回収率92.7%)

調査実施日 令和5年12月6日～令和5年12月20日

実施方法 調査票による郵送及びインターネット調査

II 調査結果概要

【消防団の認知度について】

消防団そのものの知名度は高いが、活動内容や処遇・制度、消防団員の入団方法などを理解している人は少なくなっています。

- 消防団の組織について、「知らない」と答えた人は、3.6%だったが、「活動内容を含めて知っている」と答えた人は、36.7%となっています。
- 消防団の処遇等については「知らない」と答えた人が最も多く、54.7%となっています。
- 消防団への入団促進制度については「知らない」と答えた人が最も多く、91.4%となっています。
- 消防団への入団方法については「知らない」と答えた人が92.8%となっています。

【消防団への入団について】

消防団への入団について、多くの人は体力面への不安などから入団したくないと考えていますが、話を聞いて検討したいと考えている人もいます。

- 消防団に「入団したくない」と答えた人は74.1%となっています。一方で「話を聞いて検討したい」と答えた人が全体の約4分の1(24.5%)を占めています。

【消防団の必要性について】

消防団のイメージについては比較的好印象で、多くの人は、消防団は必要と考えています。

- 消防団のイメージについては、「地域のために誇りを持って活動している」と答えた人が最も多く、57.6%となっています。続いて「災害等で困ったときに頼りになる」が49.6%、「地域のコミュニティ形成に役立つ」が42.4%となっています。
- 消防団は「必要」と答えた人は約8割(79.1%)で、年齢別では50代の91.7%が最も多くなっています。

令和5年度
第8回市政モニターアンケート

「消防団について」

北九州市広報室広聴課

目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	2
(1)消防団の組織について	2
(2)消防職員と消防団員の違いについて	3
(3)消防団の入団条件について(性別など)	5
(4)消防団の処遇(報酬や災害補償)等について	6
(5)消防団への入団促進制度について	7
(6)消防団の活動内容について	8
(7)消防団への入団方法について	9
(8)オンライン申請によるエントリー制度(試行実施中)について	10
(9)消防団のイメージについて	11
(10)女性消防団員の活躍について	12
(11)消防団への入団について	13
(12)消防団の必要性について	15
(13)消防団員の減少について	16
(14)若年層の消防団入団に関する取り組みについて(意見)	17
IV全体考察	18

I 調査の概要

調査対象者 市政モニター150人
 回答者数 139人(回収率92.7%)
 調査実施日 令和5年12月6日～令和5年12月20日
 実施方法 調査票による郵送及びインターネット調査
 調査実施課 広報室広聴課 TEL582-2527
 調査依頼課 消防局消防団課 TEL582-3819

II 市政モニターの構成

R5.12.6

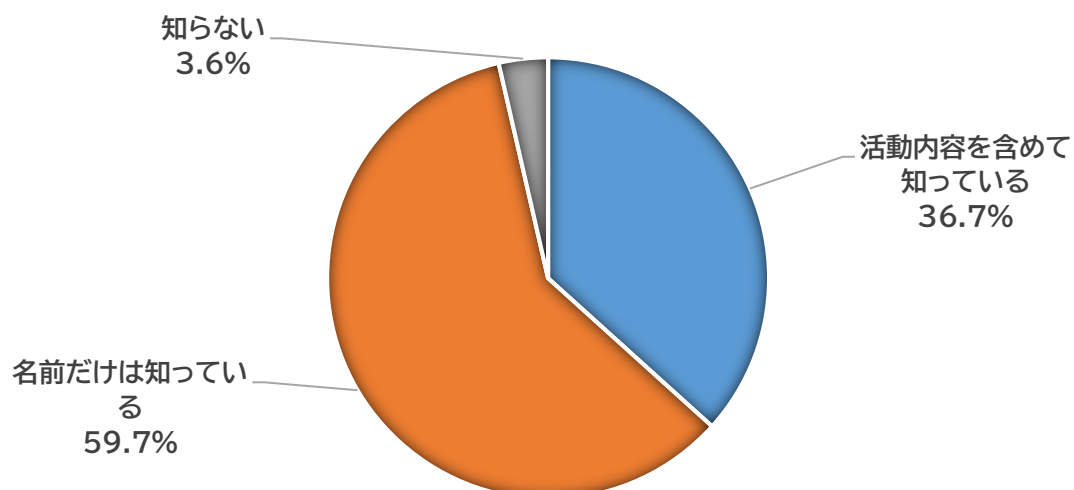
区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	150 (100.0%)	68 (45.3%)	82 (54.7%)	区 別			
10歳代	2 (1.3%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	門司区	16 (10.7%)	8 (5.3%)	8 (5.3%)
20歳代	18 (12.0%)	7 (4.7%)	11 (7.3%)	小倉北区	35 (23.3%)	15 (10.0%)	20 (13.3%)
30歳代	20 (13.3%)	10 (6.7%)	10 (6.7%)	小倉南区	26 (17.3%)	10 (6.7%)	16 (10.7%)
40歳代	24 (16.0%)	11 (7.3%)	13 (8.7%)	若松区	8 (5.3%)	1 (0.7%)	7 (4.7%)
50歳代	24 (16.0%)	11 (7.3%)	13 (8.7%)	八幡東区	11 (7.3%)	6 (4.0%)	5 (3.3%)
60歳代	22 (14.7%)	11 (7.3%)	11 (7.3%)	八幡西区	44 (29.3%)	23 (15.3%)	21 (14.0%)
70歳以上	40 (26.7%)	17 (11.3%)	23 (15.3%)	戸畑区	10 (6.7%)	5 (3.3%)	5 (3.3%)

※モニター総数150名のうち郵送モニター27名、ネットモニター123名

※数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は、一致しない場合があります。

Ⅲ 調査結果

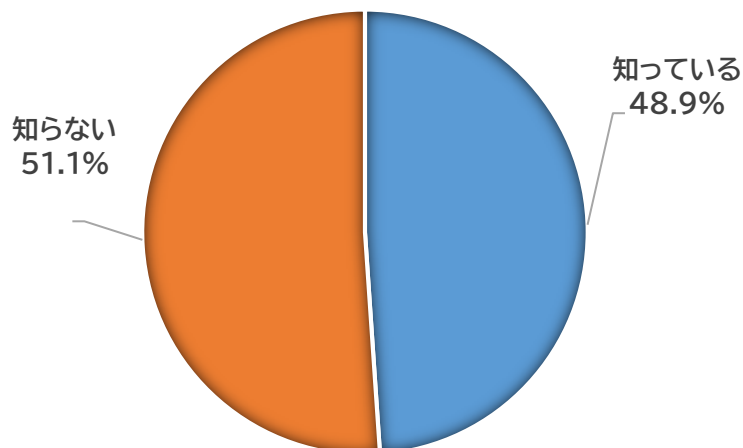
Q1 地域に密着し、防火・防災活動にボランティア精神で取り組んでいる「消防団」という組織をご存じですか？



		回答者数	活動内容を含めて知っている	名前だけは知っている	知らない
全体		139	36.7%	59.7%	3.6%
性別	男	62	45.2%	50.0%	4.8%
	女	77	29.9%	67.5%	2.6%
年齢別	10・20代	17	29.4%	64.7%	5.9%
	30代	19	57.9%	36.8%	5.3%
	40代	20	25.0%	65.0%	10.0%
	50代	24	33.3%	62.5%	4.2%
	60代	20	45.0%	55.0%	0.0%
	70代以上	39	33.3%	66.7%	0.0%
区別	門司区	16	43.8%	56.3%	0.0%
	小倉北区	32	40.6%	53.1%	6.3%
	小倉南区	25	24.0%	68.0%	8.0%
	若松区	8	50.0%	50.0%	0.0%
	八幡東区	10	30.0%	70.0%	0.0%
	八幡西区	38	36.8%	63.2%	0.0%
	戸畑区	10	40.0%	50.0%	10.0%

消防団の組織について「知らない」と答えた人は、3.6%と知名度は高くなっていますが、「活動内容を含めて知っている」と答えた人は、36.7%と消防団について十分な理解を得ているとはいえず、特に小倉南区での割合が低くなっています。

Q2 消防職員と消防団員の違いをご存じですか？



		回答者数	知っている	知らない
全体		139	48.9%	51.1%
性別	男	62	54.8%	45.2%
	女	77	44.2%	55.8%
年齢別	10・20代	17	11.8%	88.2%
	30代	19	52.6%	47.4%
	40代	20	40.0%	60.0%
	50代	24	41.7%	58.3%
	60代	20	50.0%	50.0%
	70代以上	39	71.8%	28.2%
区別	門司区	16	68.8%	31.3%
	小倉北区	32	37.5%	62.5%
	小倉南区	25	52.0%	48.0%
	若松区	8	37.5%	62.5%
	八幡東区	10	40.0%	60.0%
	八幡西区	38	55.3%	44.7%
	戸畑区	10	40.0%	60.0%

消防職員と消防団員の違いについて、「知らない」と答えた人が51.1%とわずかに多くなっています。年齢別では、10・20代の88.2%が「知らない」と答えており、他の年齢層と比較して、違いを知らない割合が高くなっています。

Q2-1 「知っている」を選択された方に質問です。

消防職員と消防団員の違いについて、知っていることを記入してください。

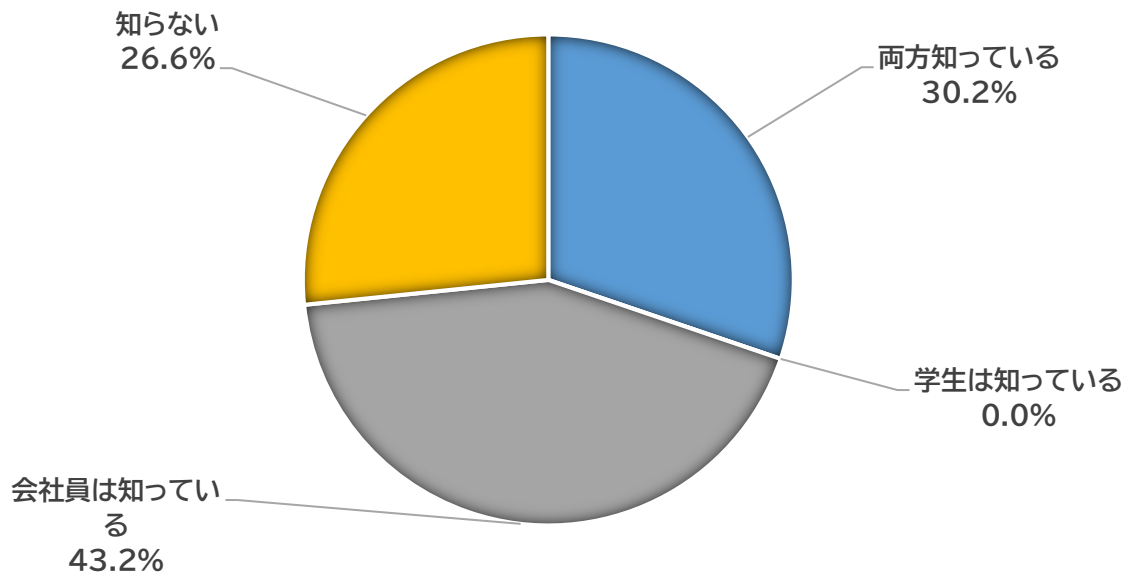
※ 全ての意見を分類・集約し、それぞれ主な意見を要約した。

1 消防職員
<ul style="list-style-type: none">・ 地方公務員であり、消防署に所属し、火事や救急の活動を専門的に行う。・ 厳しい訓練を受け、24 時間体制で勤務している。
2 消防団員
<ul style="list-style-type: none">・ 地域の住民が自主的に組織し、非常勤の特別地方公務員として活動する。・ 通常、他の職業を持ちながら、火災や災害時に出動し、消防職員の補助的な役割を果たす。・ 活動は主にボランティアベースであり、地域の防火活動やイベントへ参加するなど、地域コミュニティに密接に関与している。

知っていることについて、回答を要約すると上記のようになり、消防職員と消防団員の違いについて「知っている」を選択した人の理解度が高いことがわかります。

消防職員と消防団員は、それぞれが重要な役割を果たし、共に地域の安全を守るために活動しています。

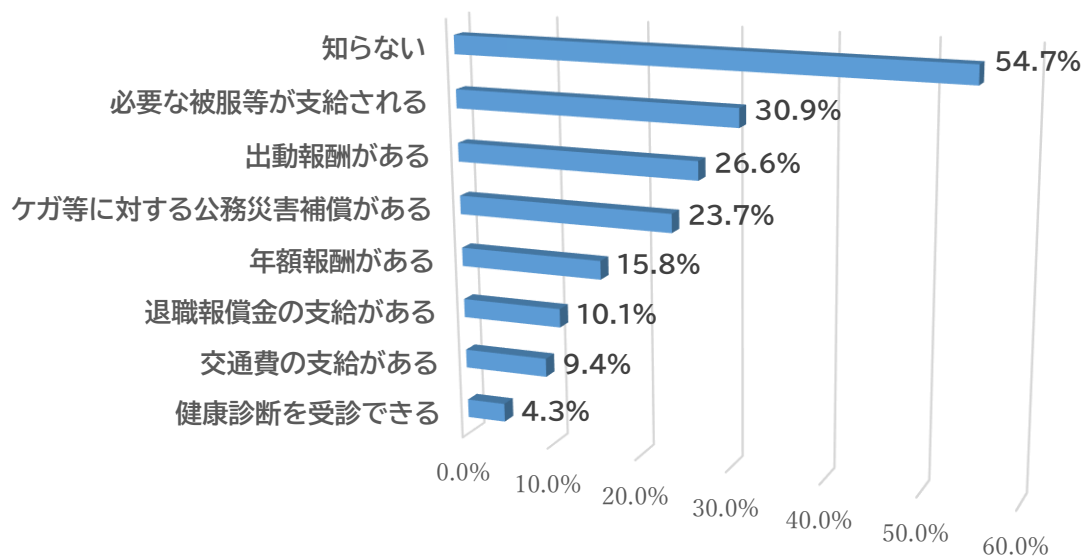
Q3 性別に関係なく、学生(大学生・専門学生)や会社員も消防団に入団できることをご存じですか？



		回答者数	両方知っている	学生は知っている	会社員は知っている	知らない
全体		139	30.2%	0.0%	43.2%	26.6%
性別	男	62	43.5%	0.0%	35.5%	21.0%
	女	77	19.5%	0.0%	49.4%	31.2%
年齢別	10・20代	17	35.3%	0.0%	35.3%	29.4%
	30代	19	15.8%	0.0%	52.6%	31.6%
	40代	20	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%
	50代	24	33.3%	0.0%	50.0%	16.7%
	60代	20	20.0%	0.0%	60.0%	20.0%
	70代以上	39	28.2%	0.0%	38.5%	33.3%
区別	門司区	16	37.5%	0.0%	56.3%	6.3%
	小倉北区	32	37.5%	0.0%	43.8%	18.8%
	小倉南区	25	20.0%	0.0%	36.0%	44.0%
	若松区	8	12.5%	0.0%	62.5%	25.0%
	八幡東区	10	10.0%	0.0%	40.0%	50.0%
	八幡西区	38	39.5%	0.0%	34.2%	26.3%
	戸畑区	10	20.0%	0.0%	60.0%	20.0%

性別に関係なく学生や大学生も消防団に入団できることを「両方知っている」人は、30.2%、「会社員は知っている」人は43.2%でした。このことから、全ての年代で学生(大学生や専門学生)も消防団に入団できることを知らない傾向にあることがわかります。

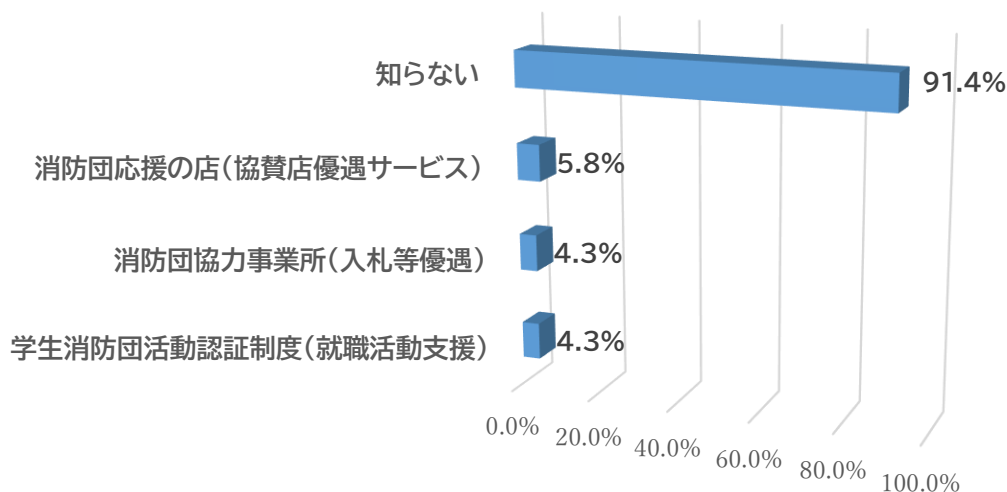
Q4 消防団の処遇(報酬や災害補償)等について知っていることを選択してください。
(複数選択可)



		回答者数	年額報酬がある	出動報酬がある	交通費の支給がある	退職報償金の支給がある	必要な被服等が支給される	ケガ等に対する公務災害補償がある	健康診断を受診できる	知らない
全体		139	15.8%	26.6%	9.4%	10.1%	30.9%	23.7%	4.3%	54.7%
性別	男	62	22.6%	41.9%	16.1%	11.3%	41.9%	30.6%	9.7%	43.5%
	女	77	10.4%	14.3%	3.9%	9.1%	22.1%	18.2%	0.0%	63.6%
年齢別	10・20代	17	17.6%	17.6%	11.8%	5.9%	17.6%	5.9%	0.0%	70.6%
	30代	19	10.5%	26.3%	15.8%	15.8%	42.1%	15.8%	15.8%	52.6%
	40代	20	20.0%	20.0%	0.0%	15.0%	25.0%	10.0%	0.0%	55.0%
	50代	24	16.7%	37.5%	8.3%	4.2%	29.2%	33.3%	0.0%	58.3%
	60代	20	10.0%	30.0%	0.0%	15.0%	30.0%	20.0%	0.0%	50.0%
	70代以上	39	17.9%	25.6%	15.4%	7.7%	35.9%	38.5%	7.7%	48.7%
区別	門司区	16	0.0%	50.0%	12.5%	18.8%	31.3%	43.8%	12.5%	31.3%
	小倉北区	32	28.1%	25.0%	15.6%	12.5%	34.4%	21.9%	3.1%	53.1%
	小倉南区	25	12.0%	16.0%	8.0%	8.0%	16.0%	12.0%	0.0%	76.0%
	若松区	8	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	62.5%
	八幡東区	10	20.0%	20.0%	10.0%	10.0%	30.0%	20.0%	10.0%	60.0%
	八幡西区	38	15.8%	28.9%	5.3%	7.9%	39.5%	31.6%	2.6%	47.4%
	戸畑区	10	20.0%	20.0%	10.0%	10.0%	30.0%	20.0%	10.0%	60.0%

消防団の処遇等については、「知らない」と答えた人が54.7%と最も多く、続いて「必要な被服等が支給される」が30.9%、「出動報酬がある」が26.6%となっています。また、10・20代の「知らない」と答えた人の割合が、他の年齢層と比較して高く、70.6%となっています。

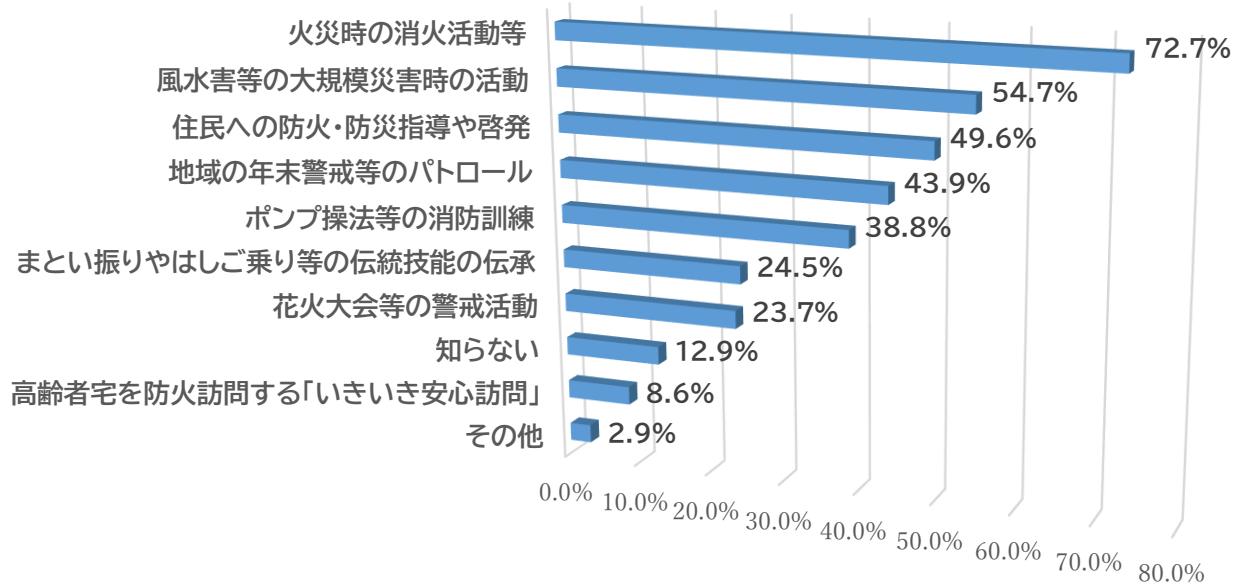
Q5 消防団への入団促進制度について知っていることを選択してください。
(複数選択可)



		回答者数	学生消防団活動認証制度(就職活動支援)	消防団応援の店(協賛店優遇サービス)	消防団協力事業所(入札等優遇)	知らない
全体		139	4.3%	5.8%	4.3%	91.4%
性別	男	62	8.1%	8.1%	8.1%	87.1%
	女	77	1.3%	3.9%	1.3%	94.8%
年齢別	10・20代	17	5.9%	11.8%	5.9%	88.2%
	30代	19	5.3%	5.3%	10.5%	89.5%
	40代	20	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	50代	24	4.2%	4.2%	0.0%	91.7%
	60代	20	5.0%	0.0%	0.0%	95.0%
	70代以上	39	5.1%	10.3%	7.7%	87.2%
区別	門司区	16	6.3%	6.3%	6.3%	93.8%
	小倉北区	32	9.4%	6.3%	6.3%	87.5%
	小倉南区	25	4.0%	4.0%	4.0%	92.0%
	若松区	8	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	八幡東区	10	10.0%	20.0%	10.0%	80.0%
	八幡西区	38	0.0%	2.6%	0.0%	97.4%
	戸畑区	10	0.0%	10.0%	10.0%	80.0%

消防団への入団促進制度については、「知らない」と答えた人が91.4%と最も多くなっています。年齢別では、60代の95.0%、40代は100.0%の人が「知らない」と答えています。

Q6 消防団の活動内容について知っていることを選択してください。(複数選択可)



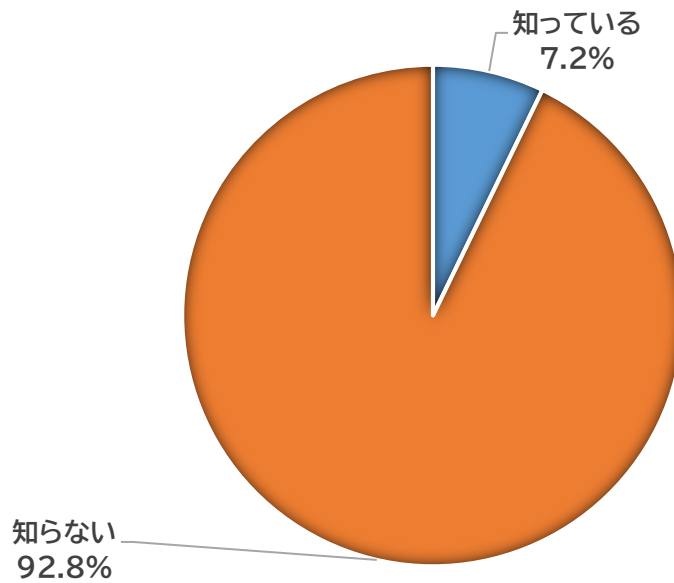
※その他の内容

・認知症高齢者等の行方不明の際に捜索活動に従事 ・地域の祭りでの交通整理 ・どんど焼きの安全管理

	回答者数	火災時の消火活動等	風水害等の大規模災害時の活動	住民への防火・防災指導や啓発	花火大会等の警戒活動	ポンプ操法等の消防訓練	まとい振りやはしご乗り等の伝統技能の伝承	高齢者宅を防火訪問する「いきいき安心訪問」	地域の年末警戒等のパトロール	知らない	その他	
全体	139	72.7%	54.7%	49.6%	23.7%	38.8%	24.5%	8.6%	43.9%	12.9%	2.9%	
性別	男	62	75.8%	64.5%	56.5%	33.9%	46.8%	35.5%	11.3%	51.6%	9.7%	6.5%
	女	77	70.1%	46.8%	44.2%	15.6%	32.5%	15.6%	6.5%	37.7%	15.6%	0.0%
年齢別	10・20代	17	70.6%	35.3%	58.8%	23.5%	29.4%	0.0%	0.0%	29.4%	23.5%	0.0%
	30代	19	63.2%	31.6%	42.1%	31.6%	36.8%	31.6%	10.5%	31.6%	21.1%	5.3%
	40代	20	75.0%	60.0%	55.0%	25.0%	40.0%	20.0%	0.0%	50.0%	10.0%	0.0%
	50代	24	70.8%	58.3%	41.7%	12.5%	33.3%	29.2%	20.8%	41.7%	8.3%	8.3%
	60代	20	70.0%	45.0%	50.0%	25.0%	40.0%	20.0%	5.0%	45.0%	20.0%	5.0%
	70代以上	39	79.5%	74.4%	51.3%	25.6%	46.2%	33.3%	10.3%	53.8%	5.1%	0.0%
区別	門司区	16	81.3%	62.5%	62.5%	31.3%	75.0%	43.8%	6.3%	62.5%	0.0%	0.0%
	小倉北区	32	75.0%	56.3%	43.8%	21.9%	34.4%	21.9%	9.4%	46.9%	18.8%	6.3%
	小倉南区	25	60.0%	56.0%	40.0%	28.0%	24.0%	20.0%	8.0%	24.0%	20.0%	0.0%
	若松区	8	87.5%	62.5%	62.5%	37.5%	75.0%	25.0%	0.0%	50.0%	12.5%	0.0%
	八幡東区	10	80.0%	70.0%	30.0%	20.0%	30.0%	20.0%	10.0%	40.0%	0.0%	10.0%
	八幡西区	38	73.7%	50.0%	57.9%	15.8%	34.2%	28.9%	10.5%	44.7%	13.2%	0.0%
	戸畑区	10	60.0%	30.0%	50.0%	30.0%	30.0%	0.0%	10.0%	50.0%	10.0%	10.0%

消防団の活動内容については、「火災時の消火活動等」が72.7%と突出して多く、続いて「風水害等の大規模災害時の活動」が54.7%となっています。また、10・20代において「伝統技能の伝承」や「いきいき安心訪問」の認知度が0.0%、区別でみると小倉北区・小倉南区の「知らない」割合が高くなっています。

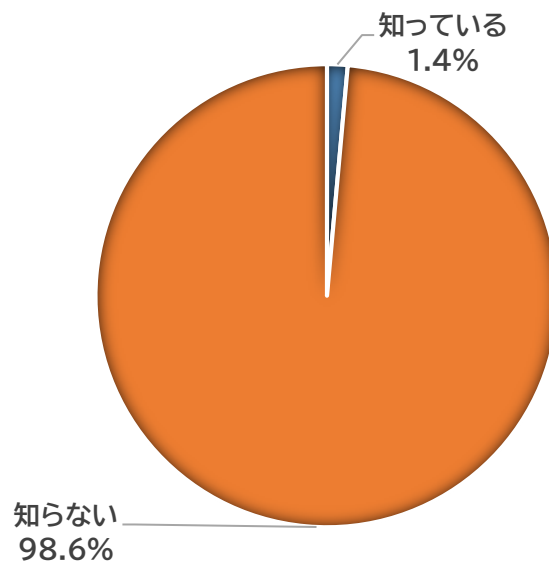
Q7 消防団への入団方法を知っていますか？



		回答者数	知っている	知らない
全体		139	7.2%	92.8%
性別	男	62	12.9%	87.1%
	女	77	2.6%	97.4%
年齢別	10・20代	17	11.8%	88.2%
	30代	19	10.5%	89.5%
	40代	20	0.0%	100.0%
	50代	24	4.2%	95.8%
	60代	20	5.0%	95.0%
	70代以上	39	10.3%	89.7%
区別	門司区	16	12.5%	87.5%
	小倉北区	32	12.5%	87.5%
	小倉南区	25	4.0%	96.0%
	若松区	8	0.0%	100.0%
	八幡東区	10	10.0%	90.0%
	八幡西区	38	2.6%	97.4%
	戸畑区	10	10.0%	90.0%

消防団への入団方法については、「知らない」と答えた人が92.8%となっています。年齢別では、50代の95.8%、40代は100.0%の人が「知らない」と答えています。

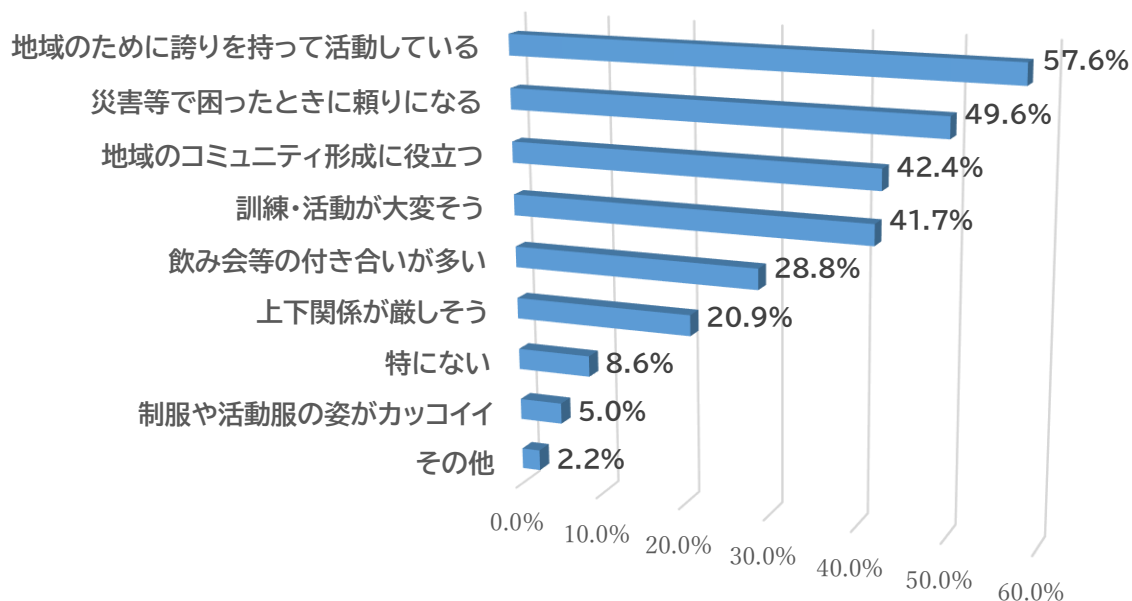
Q8 オンライン申請によるエントリー制度(試行実施中)ができたことをご存じですか？



		回答者数	知っている	知らない
全体		139	1.4%	98.6%
性別	男	62	1.6%	98.4%
	女	77	1.3%	98.7%
年齢別	10・20代	17	0.0%	100.0%
	30代	19	0.0%	100.0%
	40代	20	0.0%	100.0%
	50代	24	0.0%	100.0%
	60代	20	0.0%	100.0%
	70代以上	39	5.1%	94.9%
区別	門司区	16	6.3%	93.8%
	小倉北区	32	3.1%	96.9%
	小倉南区	25	0.0%	100.0%
	若松区	8	0.0%	100.0%
	八幡東区	10	0.0%	100.0%
	八幡西区	38	0.0%	100.0%
	戸畑区	10	0.0%	100.0%

令和5年9月から試行実施中のエントリー制度については、「知らない」と答えた人が98.6%となっています。年齢別では、10代から60代までの年代で100.0%の人が「知らない」と答えています。

Q9 消防団のイメージを選択してください。(複数選択可)



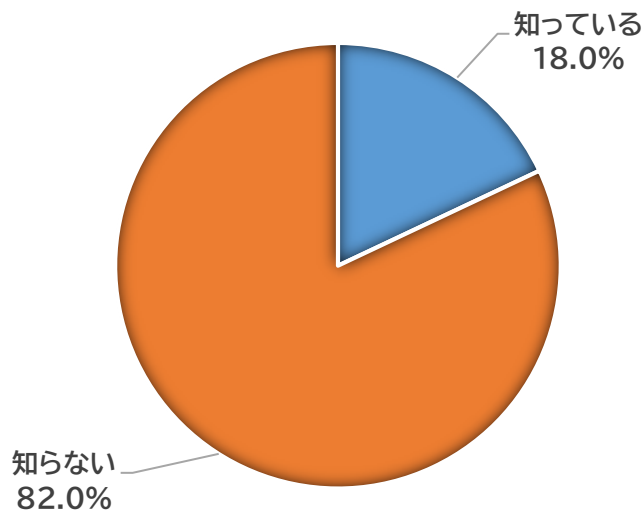
※その他の内容

- ・生業を持ちながら、緊急出動や訓練、行事等に参加するには、家庭生活を維持するうえで家族等の理解が無ければ困難
- ・昔からのコミュニティで新しい人が入りづらそうな雰囲気がある

		回答者数	制服や活動服の姿がカッコイイ	地域のために誇りを持って活動している	地域のコミュニティ形成に役立つ	災害等で困ったときに頼りになる	飲み会等の付き合いが多い	訓練・活動が大変そう	上下関係が厳しそう	特にない	その他
全体		139	5.0%	57.6%	42.4%	49.6%	28.8%	41.7%	20.9%	8.6%	2.2%
性別	男	62	3.2%	54.8%	41.9%	46.8%	32.3%	48.4%	22.6%	8.1%	1.6%
	女	77	6.5%	59.7%	42.9%	51.9%	26.0%	36.4%	19.5%	9.1%	2.6%
年齢別	10・20代	17	5.9%	41.2%	29.4%	47.1%	17.6%	47.1%	23.5%	11.8%	0.0%
	30代	19	10.5%	52.6%	36.8%	47.4%	42.1%	47.4%	15.8%	10.5%	5.3%
	40代	20	15.0%	60.0%	50.0%	40.0%	55.0%	55.0%	50.0%	5.0%	0.0%
	50代	24	0.0%	58.3%	54.2%	54.2%	37.5%	33.3%	12.5%	4.2%	0.0%
	60代	20	0.0%	65.0%	40.0%	45.0%	30.0%	30.0%	20.0%	15.0%	5.0%
	70代以上	39	2.6%	61.5%	41.0%	56.4%	7.7%	41.0%	12.8%	7.7%	2.6%
区別	門司区	16	0.0%	56.3%	56.3%	50.0%	43.8%	43.8%	31.3%	6.3%	0.0%
	小倉北区	32	6.3%	56.3%	40.6%	65.6%	28.1%	37.5%	18.8%	6.3%	3.1%
	小倉南区	25	8.0%	48.0%	44.0%	36.0%	20.0%	32.0%	20.0%	20.0%	0.0%
	若松区	8	25.0%	75.0%	37.5%	37.5%	12.5%	75.0%	12.5%	0.0%	12.5%
	八幡東区	10	0.0%	70.0%	60.0%	40.0%	10.0%	30.0%	20.0%	0.0%	10.0%
	八幡西区	38	2.6%	65.8%	34.2%	55.3%	34.2%	44.7%	23.7%	5.3%	0.0%
	戸畑区	10	0.0%	30.0%	40.0%	30.0%	40.0%	50.0%	10.0%	20.0%	0.0%

消防団のイメージについては、「地域のために誇りを持って活動している」と答えた人が最も多く、57.6%となっています。続いて「災害等で困ったときに頼りになる」が49.6%、「地域コミュニティの形成に役立つ」が42.4%となっており、比較的好印象で地域防災力の中核として期待されていることがうかがえます。

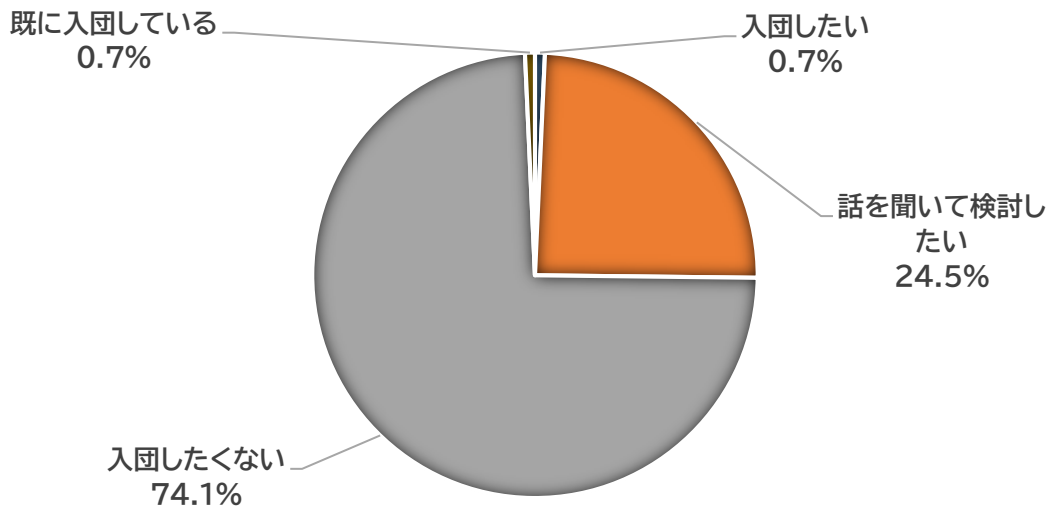
Q10 女性消防団員が防火訪問や伝統技能の演技等で活躍していることをご存じですか？



		回答者数	知っている	知らない
全体		139	18.0%	82.0%
性別	男	62	25.8%	74.2%
	女	77	11.7%	88.3%
年齢別	10・20代	17	11.8%	88.2%
	30代	19	10.5%	89.5%
	40代	20	15.0%	85.0%
	50代	24	20.8%	79.2%
	60代	20	20.0%	80.0%
	70代以上	39	23.1%	76.9%
区別	門司区	16	43.8%	56.3%
	小倉北区	32	12.5%	87.5%
	小倉南区	25	8.0%	92.0%
	若松区	8	25.0%	75.0%
	八幡東区	10	20.0%	80.0%
	八幡西区	38	18.4%	81.6%
	戸畑区	10	10.0%	90.0%

女性消防団員の活躍については「知らない」と答えた人が82.0%となっています。年齢別では、10・20代の88.2%、30代の89.5%の人が「知らない」と答えており、30代以下の若年層の割合が他の年代より高いことがわかります。また、区別では小倉南区が最も「知らない」割合が高く、92.0%となっています。

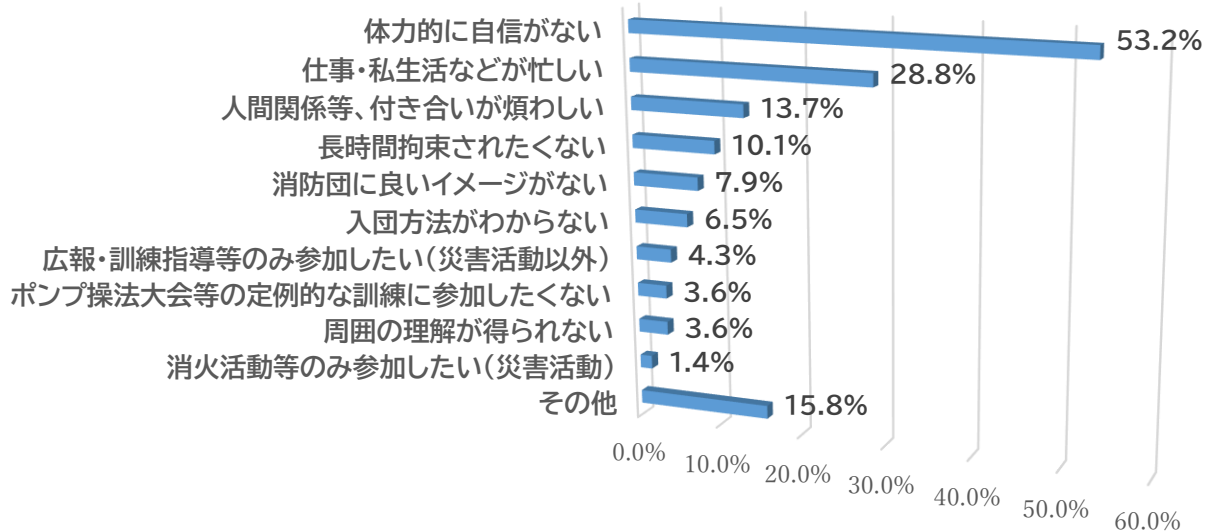
Q11 あなたは消防団に入団したいと思いますか？



		回答者数	入団したい	話を聞いて検討したい	入団したくない	既に入団している
全体		139	0.7%	24.5%	74.1%	0.7%
性別	男	62	1.6%	24.2%	72.6%	1.6%
	女	77	0.0%	24.7%	75.3%	0.0%
年齢別	10・20代	17	0.0%	23.5%	76.5%	0.0%
	30代	19	0.0%	36.8%	57.9%	5.3%
	40代	20	0.0%	35.0%	65.0%	0.0%
	50代	24	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%
	60代	20	5.0%	30.0%	65.0%	0.0%
	70代以上	39	0.0%	5.1%	94.9%	0.0%
区別	門司区	16	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%
	小倉北区	32	0.0%	28.1%	71.9%	0.0%
	小倉南区	25	4.0%	28.0%	68.0%	0.0%
	若松区	8	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%
	八幡東区	10	0.0%	20.0%	70.0%	10.0%
	八幡西区	38	0.0%	21.1%	78.9%	0.0%
	戸畑区	10	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%

消防団に「入団したくない」と答えた人は74.1%となっています。一方で「話を聞いて検討したい」と答えた人が全体の約4分の1(24.5%)を占めています。

Q11-1 Q11 で、③「入団したくない」を選択された方に質問です。入団したくない理由を選択してください。(複数選択可)



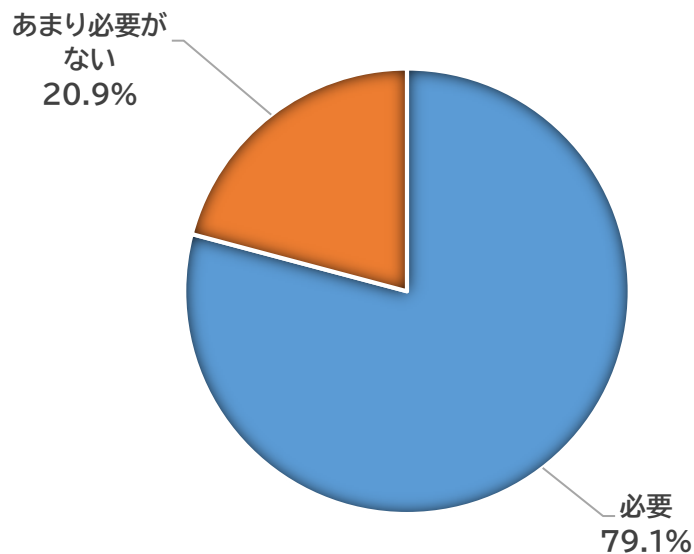
※その他の主な意見

- ・活動内容がわからない ・今まで関心を持ったことがなかった(男性のみで構成されていると思っていた)
- ・高齢者でも活躍できる分野を拡大してほしい ・一律的な活動ではなく、個性や希望に応じた活動ができると良い
- ・年齢的に困難(高齢のため) ・身体的に困難 ・過去入団していたが合わなかった

	回答者数	仕事・私生活などが忙しい	長時間拘束されたくない	体力的に自信がない	人間関係等、付き合いが煩わしい	周囲の理解が得られない	消防団に良いイメージがない	入団方法がわからない	消火活動等のみ参加したい(災害活動)	広報・訓練指導等のみ参加したい(災害活動以外)	ポンプ操法大会等の定例的な訓練に参加したくない	その他	
全体	139	28.8%	10.1%	53.2%	13.7%	3.6%	7.9%	6.5%	1.4%	4.3%	3.6%	15.8%	
性別	男	62	29.0%	14.5%	41.9%	12.9%	3.2%	9.7%	4.8%	3.2%	1.6%	6.5%	19.4%
	女	77	28.6%	6.5%	62.3%	14.3%	3.9%	6.5%	7.8%	0.0%	6.5%	1.3%	13.0%
年齢別	10・20代	17	52.9%	11.8%	23.5%	17.6%	0.0%	5.9%	5.9%	0.0%	5.9%	5.9%	5.9%
	30代	19	36.8%	10.5%	36.8%	15.8%	10.5%	15.8%	5.3%	0.0%	5.3%	5.3%	10.5%
	40代	20	45.0%	15.0%	40.0%	30.0%	0.0%	25.0%	0.0%	5.0%	10.0%	10.0%	0.0%
	50代	24	25.0%	4.2%	50.0%	8.3%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	4.2%	4.2%
	60代	20	30.0%	15.0%	55.0%	10.0%	5.0%	5.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.0%
	70代以上	39	7.7%	7.7%	82.1%	7.7%	5.1%	2.6%	12.8%	2.6%	5.1%	0.0%	38.5%
区別	門司区	16	25.0%	6.3%	62.5%	18.8%	0.0%	12.5%	6.3%	0.0%	0.0%	18.8%	18.8%
	小倉北区	32	25.0%	3.1%	56.3%	9.4%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	15.6%
	小倉南区	25	32.0%	12.0%	32.0%	12.0%	4.0%	12.0%	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.0%
	若松区	8	25.0%	12.5%	75.0%	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
	八幡東区	10	20.0%	20.0%	60.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	30.0%
	八幡西区	38	31.6%	13.2%	55.3%	21.1%	5.3%	10.5%	13.2%	2.6%	13.2%	5.3%	7.9%
	戸畑区	10	40.0%	10.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	30.0%

入団したくない理由については、「体力的に自信がない」が最も多く53.2%となっており、50代以上のすべての年代で50.0%を超えています。続いて、「仕事・私生活などが忙しい」が28.8%となっており、10代から40代では入団したくない最も多い理由となっています。

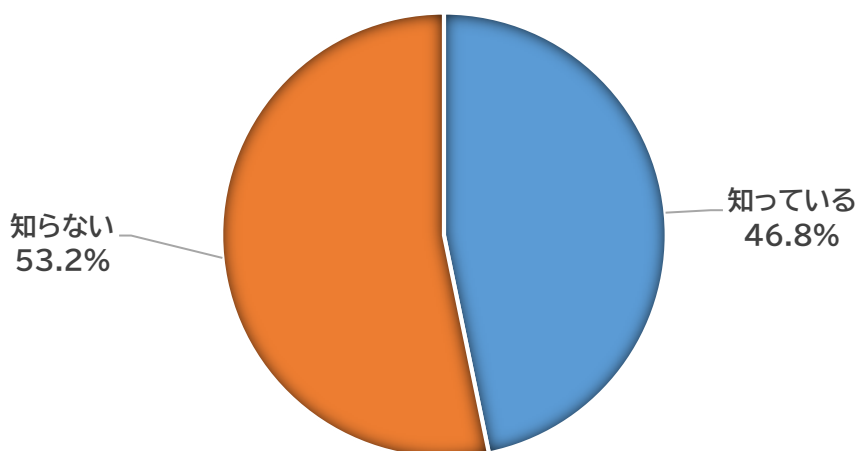
Q12 これまでのアンケートを踏まえ、消防団は必要だと思いますか？



		回答者数	必要	あまり必要がない
全体		139	79.1%	20.9%
性別	男	62	74.2%	25.8%
	女	77	83.1%	16.9%
年齢別	10・20代	17	76.5%	23.5%
	30代	19	78.9%	21.1%
	40代	20	75.0%	25.0%
	50代	24	91.7%	8.3%
	60代	20	60.0%	40.0%
	70代以上	39	84.6%	15.4%
区別	門司区	16	81.3%	18.8%
	小倉北区	32	87.5%	12.5%
	小倉南区	25	76.0%	24.0%
	若松区	8	62.5%	37.5%
	八幡東区	10	70.0%	30.0%
	八幡西区	38	76.3%	23.7%
	戸畑区	10	90.0%	10.0%

消防団は「必要」と答えた人は約8割(79.1%)で、年齢別では50代の91.7%が最も多くなっています。これまでのアンケートも踏まえ、消防団は必要と考えている人が多いことがわかります。

Q13 全国的に消防団員のなり手が年々減少していることをご存じですか？



		回答者数	知っている	知らない
全体		139	46.8%	53.2%
性別	男	62	50.0%	50.0%
	女	77	44.2%	55.8%
年齢別	10・20代	17	29.4%	70.6%
	30代	19	36.8%	63.2%
	40代	20	50.0%	50.0%
	50代	24	54.2%	45.8%
	60代	20	50.0%	50.0%
	70代以上	39	51.3%	48.7%
区別	門司区	16	62.5%	37.5%
	小倉北区	32	43.8%	56.3%
	小倉南区	25	40.0%	60.0%
	若松区	8	87.5%	12.5%
	八幡東区	10	30.0%	70.0%
	八幡西区	38	42.1%	57.9%
	戸畑区	10	50.0%	50.0%

全国的に消防団のなり手が減少していることを約5割(46.8%)の人が「知っている」という結果でした。年齢別では、30代の6割以上(63.2%)、10・20代の7割以上(70.6%)が「知らない」と回答しており、若年層ほど設問の内容を「知らない」傾向にあることがわかります。

Q14 どうしたら若年層の方が消防団に入団すると思いますか？

※ 全ての意見を5つの項目に分類・集約し、それぞれ主な意見を要約した。

1 広報活動と認知度向上について
<ul style="list-style-type: none">・ 消防団の存在と活動を広く知らせるために、テレビや市報、SNS、インフルエンサーなどを活用する。・ イベントでの啓発活動の強化や入団体験の機会を設ける。・ 消防団にカッコイイ名前をつける。
2 学校教育について
<ul style="list-style-type: none">・ 学校でのデモンストレーションなどを増やすべきである。・ 高校生から入団教育を行い、地域の安全を守る意識を育てるべきである。
3 消防団のイメージ改善について
<ul style="list-style-type: none">・ マイナスイメージを払拭し、消防団の重要性を伝える。・ 硬直的な組織のしがらみを排除する。・ 消防団の役割や目的をもっとアピールする。・ 名誉を高めることで参加意欲を引き出す。
4 制度改革とメリットについて
<ul style="list-style-type: none">・ 消防団を職業とした上で、消防本部の下部組織のような扱いを検討する。・ 減税、ワクチンの無料接種、教育費用の軽減などのメリットがあるとよい。・ 消防職員を目指す学生に有利な条件を整えることや日給を支給するなどのメリットがあるとよい。・ 報酬の明確化(増額)や入団することによるメリットを具体的に示す。
5 柔軟な運用について
<ul style="list-style-type: none">・ 操法のための活動での拘束時間を短縮し、気軽に活動できる環境を整える。・ 学生や女性向けの消防団を設置する。

若年層の方が入団するために必要な、多くの具体的な意見がありました。これらの意見を参考に、地域の状況やニーズに応じて消防団の活動をより良くするための改善策や具体的な取り組みを考えていく必要があります。

IV 全体考察

本市の消防団に関する市民の理解度について、「活動内容を含めて知っている」と回答した人は、約4割にとどまっていることから消防団について市民が十分に理解しているとは言えず、全ての年代を対象とした広報・PR活動等が重要といえます。

また、各認知度に関するアンケートでは、消防団の処遇については約5割、入団促進制度については約9割の人が「知らない」と回答しています。特に現在試行実施中の「エントリー制度(※)」については、ほぼ全員が「知らない」という結果でした。加えて、女性消防団員の活躍を含めた消防団の活動について、認知度が低かった行政区にターゲットを絞った広報活動を展開することや、消防団に入団することのメリット、消防団員に対する支援策などについて、具体的に伝える方法を考える必要があります。

一方で、消防団のイメージについては比較的好印象で、消防団は必要と考えている人が多いという結果でした。地域のために誇りを持って活動しているという評価が高いことから、消防団の活動の成果や貢献を積極的に発信することでイメージを高め、消防団は地域防災の中核として欠くことのできない代替性のない存在であることを再認識させる必要があると考えます。

また、消防団に入団したくないと考える人は多いですが、話を聞いて検討したい人も約4分の1いるという結果でした。入団したくない理由としては、体力的に自信がないことや仕事や私生活が忙しいことが多く、このことから、消防団の活動が体力的に無理なく、私生活との両立も可能であること等をアピールする必要があります。全国的に、消防団のなり手が減少していることを若年層ほど知らない傾向にあることから、消防団の現状や課題を正しく伝えることで、入団の必要性や緊急性を感じさせる必要があると考えます。

以上の考察から、消防団への入団促進につなげるためには、以下のようなことが必要であると考えます。

○消防団の組織や活動内容、消防職員と消防団員の違いなど、消防団に関する基本的な情報を広く普及させる。

○各区の特色を活かした広報を実施する。

○学生や女性も消防団に入団できることを積極的にアピールする。学校や職場などで消防団の活動を紹介するなど、若年層や女性にアプローチする方法を工夫する。

○消防団の処遇や入団促進制度など、消防団のメリットや支援策を具体的に伝える。エントリー制度(※)などの新しい制度についても、わかりやすく説明する。

○消防団のイメージを高めるために、消防団の活動の成果や貢献を積極的に発信する。地域のために誇りを持って活動しているというメッセージを強調する。

○女性消防団員の活躍を紹介するために、女性消防団員の声や経験をメディアやSNSなどで発信する。女性消防団員の役割や魅力をアピールする。

○消防団活動は、体力的に無理なくできることや仕事や私生活との両立が可能であることをアピールするとともに、消防団の活動時間や頻度などを柔軟に対応するなど、入団しやすい環境を整える。

○消防団の必要性や緊急性を感じさせるために、消防団の現状や課題を正しく伝える。全国的に消防団のなり手が減少していることや、災害時に消防団が果たす重要な役割などを強調する。

○若年層の意見や要望を尊重し、消防団の活動をより良くするための改善策を具体的に取り組み、消防団の活動に参加しやすいようにする。

【まとめ】

消防団の処遇や制度について、多くの人が「知らない」という結果でしたが、消防団のイメージは比較的好印象で、必要性の認識も高いことが確認できました。体力的な面から消防団に入団したくないと考える人が多い一方で、話を聞いて検討したい人も約4分の1いることから、現在試行実施中のエントリー制度(※)を広く周知し、まずは消防団への理解を深め、入団につなげていくことが重要であると考えます。

地域住民に最も身近な防災機関である消防団の人員を、将来にわたって確保する必要があるため、学校や事業所への積極的な働きかけと広報媒体を活用したPR活動を行う事により、消防団の認知度を高め、消防団員の確保対策を強化することで、市民が「安全」で「安心」して暮らせる地域づくりを推進していきます。

(※)エントリー制度：消防団に興味はあるが、入団の申し込みをするにはハードルが高いと考えている市民等を対象に、オンラインによる申請(エントリーシート)を受け付け、申請者からの質問や相談に応じるもの。

【市政モニターに関すること】

広報室広聴課(Tel:582-2527)

【アンケートに関すること】

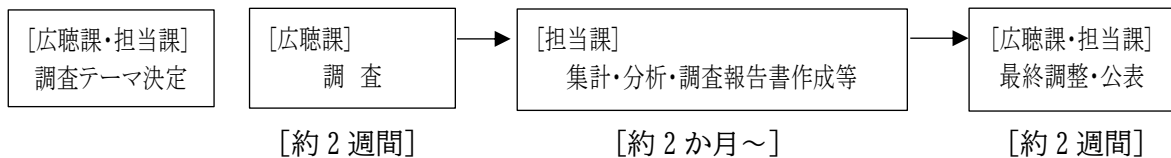
消防局消防団課(Tel:582-3819)

市政モニター制度について

1. 市政モニター制度の概要

市の様々な施策を進めるうえで、満足度や実感などの市民の生の声を参考とするため、毎年、公募による18歳以上の市民150人に、市政モニターとして様々な分野のアンケートに協力していただいています（依頼期間 令和5年5月から令和6年3月）。

2. 市政モニター調査の作業工程について



3. 令和5年度 市政モニターアンケート調査 実施予定及び公表予定

回	実施時期	件名	担当課	回収率	公表予定
1	5月12日～5月26日	認知症支援・介護予防に関する意識調査	保健福祉局 認知症支援・介護予防センター	95.3%	8月
2	6月2日～6月16日	北九州市の観光振興について	産業経済局 観光課	92.7%	9月
3	6月30日～7月14日	生涯学習に関する意識調査	市民文化スポーツ局 生涯学習課	93.3%	10月
4	7月28日～8月11日	子ども食堂等の認知度調査	子ども家庭局 子育て支援課	96.0%	10月
5	8月18日～9月1日	モラル・マナーアップについて	市民文化スポーツ局 安全・安心推進課	94.6%	11月
6	9月15日～9月29日	暴力追放運動について	市民文化スポーツ局 安全・安心推進課	95.3%	12月
7	11月8日～11月22日	北九州市の生物多様性について	環境局 環境監視課	92.7%	2月
8	12月6日～12月20日	消防団について	消防局 消防団課	92.7%	3月